



服部範子 先生
人文学部教授



『入門英語音声学』
〈研究社、2012.12〉
【所在】図・開架・図書
【請求記号】 831.1 / H44

英語の音の塊をほくし、ステップでリズム
まず「入門英語音声学」について教えてください。

本のタイトルは出版社の意向で「英語音声学」という学問名称になっていますが、英語学習でよく耳にする「文字を見ればわかるのに音だけだと何と何と聞いているのかわからない」という悩みを少しでも解消できるように、英語の音声の特徴について音声学の理論に基づきながら、できるだけ平易に解説しています。この本の中心である第三章「ネイティブのように聞く10のポイント」では「とりあえずこれだけ知っていると音の塊が今よりずっとほぐれやすくなる」という音の特徴を厳選し、解説を加えています。また、第五章「字余りを作らないために」では英語のリズムを身につけるために足のステップを利用した学習法を紹介しています。これはロンドンの石畳を歩きながら思いついた学習法です。英語が速く聞こえてしまうという方は是非一度、

このステップを試してもらおうと英語のスピードに乗りやすくなるはずですが、この第三章と第五章を拾い読みするだけでも英語の音の「型」が見えてくるように執筆しました。また、三重大学の新生は共通教育で英語三科目が必修科目で、リスニングもありです。もともと読解力がある三重大生が、この本で紹介している英語のちよつとした「型」を身につけたら「鬼に金棒」なのです。

中学時代の英語の謎を解いた大学の教科書
では、音声学の研究を始めたきっかけは何だったのでしょうか。

かなり昔、中学時代の二つの英語の思い出にさかのぼります。二目は英語を習い始めた頃に生じた疑問です。「見る」の「SEE」と「海」の「SEA」という二つの単語は、発音は同じなのになぜか綴りが違う。でも当時、中学生レベルの本で、その疑問を解消してくれる本は何もなく、そんなものか

思いがけない組み合わせで突破口を
三重大生へメッセージをお願いします。

私の場合は大学三年生で突然視界が開け、留學先のロンドンでは物理の本をひもとくことになりました。今、英語のリズムを考察するために二つの数式を用いるのがトレンドとなっています。人生、思いがけない組み合わせで突破口が開けるものです。三重大は総合大学なので、図書館には各分野の図書が非常に充実しています。時々、自分の専攻の隣接分野、あるいは全く異なる分野の書棚にふらっと出かけて、そしてちよつと面白そうな本を手にとつて覗いてみるというのもいいと思います。100パーセント理解出来なくても、ちよつとアンテナを張る感じです。総合大学の強みを生かして図書館を利用してもらえれば良いのではないかと思います。

※1 先生が「音声学」を学ぶきっかけとなった本は附属図書館で読めます。
原著：[An introduction to the pronunciation of English] 3rd ed. A. C. Gimson, Edward Arnold, 1980.
【所在】図・開架・図書ほか 【請求記号】 831.1 / G45
1980.
【所在】図・開架・図書ほか 【請求記号】 831.1 / G45
1983.
【所在】図・開架・図書ほか 【請求記号】 831.1 / G45

【服部範子先生プロフィール】
三重県立津高等学校卒業。大学在学中に音声学という分野に出会い、石坂記念財団奨学生としてロンドン大学大学院ユニヴァーシティ・コレッジに留學。帰国後、三重大人文学部文化学科に職を得て現在、三重大人文学部教授。ロンドン大学より博士号取得。この三月まで放送大学三重学習センター客員教授として社会人の英語学習もサポート。現在、一年生の共通教育英語と人文学部文化学科の専門科目を担当している。主な著者に『社会言語学概論』(くろしお出版、共著)、『はじめて学ぶ社会言語学』(ミネルヴァ書房、共著)など。

ロンドンの留學生生活は心躍る日々でした
どんな留學生時代を過ごされたのですか。

私の留學生時代はロンドンでの留學生生活がすべてといつていいほどです。大学三年生の時、学びたい分野が突然見つかったものの、当時の日本では文系系の大学に進んだ後、この分野を学ぶには海外へ行くしかありませんでした。大学寮に二年、イギリス人家庭に二年下宿しました。そのロンドンでの最初の「実験音声学」の授業は驚いたことに「振り子の実験」でした。急いで音波や共鳴のことが書いてある物理の本を買って本屋へ走った思い出があります。思いがけない体験でした。現地ではイギリス人だけでなく、アジアやアフリカからの留學生とも知り合いになり、今思い出してもわくわくする毎日でした。

ここから広げよう!!各学部の先生からの オススメ本 READING LIST

共通教育 太城康良先生

藤沢晃治 著
『「分かりやすい表現」の技術：意図を正しく伝えるための16のルール』
講談社
【所在】図・開架・図書
【請求記号】 816 / F66

相手に自分の意思を分かりやすく伝える技術は様々な場面で必要とされる。本書は、まず「分かる」という脳内の情報処理の過程を解説し、分かりにくい原因を分析している。次に、実際に分かりにくい表現を改善した事例を豊富に紹介しており、それを見るだけでも十分参考ができる。今後の学業、面接、仕事などのプレゼンをより良く、楽しむためにも、多くの学生に本書を推薦する。

生物資源学部 田丸浩先生

佐藤健太郎 著
『炭素文明論：「元素の王者」が歴史を動かす』
新潮社
【所在】図・開架・図書
【請求記号】 435.6 / Sa85

本書は冒頭、「化学というのは、どうにも地味な、人気のない学問だ。」という件(くだり)で始まる。次の頁には「周期表」が示され、それ以降は「元素の王者」である「炭素(C)」に関して全編が綴られている。人類は炭素によって生かされ、炭素によって歴史は動かされてきた。地球温暖化が危惧される今日、21世紀は「炭素争奪戦の時代」であることが改めて思い知らされる良書である。

工学部 浅野聡先生

鈴木秀夫 著
『森林の思考・砂漠の思考』
日本放送出版協会
【所在】図・開架・図書
【請求記号】 290.1 / Su96

人間の思考方法は、森林的思考と砂漠的思考に大別でき、森林的思考(例えば仏教)は下から上をみる姿勢であり世界を永遠と、砂漠的思考(例えばキリスト教)は上から下をみる姿勢で世界を有限と考え、異なる思考方法を生み出す根源が風土的条件であることを豊富なデータを用いてわかりやすく解説している。森林の国である日本文化と諸外国との比較文化を考える上で興味深い一冊である。

医学部 井村香積先生

ダニエル・ゴールマン 著
土屋京子 訳
『EQ:こころの知能指数』
講談社
【所在】図・開架・図書
【請求記号】 141.6 / G61

この著書は「人生の成功は成績やIQではなくEQである」と主張する。社会に出て活躍するにはEQが重要なのだ。本書には、EQに関する具体的な事例が紹介されている。この事例は、人生の歩み方のヒントを与えてくれるだろう。さらに、「EQは教育できる」と書かれている。もし、EQが低かったとしても、教育や経験を積むことで高められるのだ。この本を読み、EQを高め人生の成功をえて欲しい。

教育学部 松本昭彦先生

阿辻哲次 著
『漢字再入門：楽しく学ぶために』
中央公論新社
【所在】図・開架・図書
【請求記号】 811.2 / A95

「とめ・はね・はらい」や筆順(書き順)など、意味があるのか疑問を持ちながらも、先生に言われるままに覚え(させられ)た漢字についての決まり事が、どのようにして決まったのか、そして実際の所どの程度有効なのか。これら、学校教育と関わり深い内容が豊富で、とてもわかりやすい。漢字について興味を持つ人だけでなく、特に教職を目指す学生には知っておいてほしい知識満載の本である。

人文学部 三根慎二先生

猪谷千香 著
『つながる図書館：コミュニティの核をめざす試み』
筑摩書房
【所在】図・開架・図書
【請求記号】 016.2 / I23

「住みたい」図書館、「これまでにない」図書館、「TSUTAYA」図書館、「市民が演じる」図書館、「鳥がまるごと」図書館。公共図書館に対して抱いているイメージはそれぞれだと思うが、近年、従来の伝統的公共図書館とは一線を画す図書館が登場し、社会における公共図書館の位置づけが揺さぶられている。上記の図書館がどのようなものか気になる人は本書を読んでみると良いだろう。